

2  
CZ  
212  
010  
明治二十二年紀元節御發布

# 大日本帝國憲法

附○議院法○衆議院撰舉法○會計法○貴族院令

東京

須原書店發行







皇祖

皇宗及

皇考ノ神祐ヲ禱リ併セテ朕カ現在及將來ニ臣民ニ率先シ此ノ憲章ヲ履行シテ徳ヲ  
サツムコトヲ誓フ庶幾クハ

神靈此レヲ監ミタマヘ

### 憲法發布勅

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ幸福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承クルノ大權ニ依  
リ現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス  
惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ倚リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮  
ニ垂レタリ此レ我カ神聖ナル皇宗ノ威徳ト玆ニ臣民ノ忠實勇武ニノ國ヲ發シ公ニ

臣民ノ子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉體シ朕カ事ヲ獎勵シ相與ニ和衷協同シ  
益々我カ帝國ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルヲ希冀サ  
同クシ此ノ負擔ヲ分ツニ堪フルコトヲ疑ハサルナリ

朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ惠  
撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ幸福ヲ増進シ其ノ懿徳良能發達セシメムコ  
トヲ願ヒ又其ノ翼贊ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十四年  
十月十四日ノ詔命ヲ履踐シ玆ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕後嗣及臣民及臣  
民ノ子孫タル者ヲシテ永遠ニ循行スル所ヲ知ラシム  
國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將來  
此ノ憲法ノ條章ニ循ヒ之ヲ行フコトヲ愆ラサルヘシ  
朕ハ我カ臣民ノ權利及財產ノ安全ヲ貴重シ及之ヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内ニ於  
事有テ完全ナラシムヘキコトヲ宣言ス



帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會開會ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有効ナ  
ラシムルノ期トスヘシ

將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時置テ見ルニ至テハ朕及朕カ繼承ノ  
子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ議決  
スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之カ紛更ヲ試ミルコトヲ得サルヘシ

朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此ノ憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民  
ハ此ノ憲法ニ對シ永遠ニ德順ノ義務ヲ負フヘシ

### 御名御璽

明治二十二年二月十一日

內閣總理大臣 伯爵黑田清隆  
樞密院議長 伯爵伊藤博文

外務大臣	伯爵大隈重信
海軍大臣	伯爵西鄉從道
農商務大臣	伯爵井上馨
司法大臣	伯爵山田顯義
大藏大臣兼內務大臣	伯爵松方正義
陸軍大臣	伯爵大山巖
文部大臣	子爵森有禮
遞信大臣	子爵榎本武揚



# 大日本帝國憲法

## 第一章 天皇

- 第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
- 第二條 皇位ハ皇統ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス
- 第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
- 第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ
- 第五條 天皇ハ帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フ
- 第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス
- 第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス
- 第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス
- 此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ若議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ



第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス但シ此ノ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各々其ノ條項ニ依ル

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條 天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其ノ他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ヌ

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

## 第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルノ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應ジ均ク文武官ニ任セラレ及其ノ他ノ公務ニ就クコトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納税ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スニテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハルコトナ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラルコトナシ



第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サル、コトナシ  
第二十七條 日本臣民ハ其ノ所有權ヲ侵サル、コトナシ  
公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限於テ信教ノ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨クルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ牴觸セサルモノニ限り軍人ニ準行ス

### 第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ選舉法ノ定ムル所ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコトヲ得ス

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩議員ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス



第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ  
臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ  
衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ選舉セシメ解散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各、其ノ總議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其ノ院ノ決議ニ依リ秘密會ト

爲スコトヲ得

第四十九條 兩議院ハ各天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲グルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關スル罪ヲ除ク外會期中其ノ院ノ許諾ナクシテ逮捕セラルコトナシ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其責ニ任ス



凡テ法律勅令其ノ他國務ニ關スル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ニ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其ノ職ヲ免セラルヽコトナシ

懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルト

キハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訟訴ニシテ別

ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ

豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル



場合ヲ除ク外帝國議會ノ協賛ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歳出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ス

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ロ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安全ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其承諾ヲ求ムルヲ要ス

第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前

年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歳出入ノ決算ハ會計検査院之ヲ検査確定シ政府ハ其ノ検査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ會計検査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 將來此憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各、其ノ總員二分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員二分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用ヰタルニ拘ラス此ノ憲法ニ矛盾セサル



現行ノ法令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有ス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立ノ日ヨリ各本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ス

# 御名御璽

明治二十二年二月十一日

- |           |        |
|-----------|--------|
| 内閣總理大臣    | 伯爵黑田清隆 |
| 樞密院議長     | 伯爵伊藤博文 |
| 外務大臣      | 伯爵大隈重信 |
| 海軍大臣      | 伯爵西郷從道 |
| 農商務大臣     | 伯爵井上馨  |
| 司法大臣      | 伯爵山田顯義 |
| 大藏大臣兼内務大臣 | 伯爵松方正義 |
| 陸軍大臣      | 伯爵大山巖  |
| 文部大臣      | 伯爵森有禮  |
| 逓信大臣      | 子爵榎本武揚 |



法律第二號

議院法

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

第一條 帝國議會召集ノ勅諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各二名ノ候補者ヲ選舉セシメ其ノ中ヨ

リ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セラルハマテハ書記官長議長ノ職務ヲ行フヘシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ互

選スヘシ

第五條 兩院議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩議員ヲ貴族院ヨ

會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章 議長書記官及經費

第七條 各議院ノ議長副議長ハ各一員トス

第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職スハ其ノ他ノ事故ニ由リ闕位トナリタルトキハ繼任

者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表

ス

第十一條 議長ハ議會閉會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ

預カラス

第十三條 各議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ撰舉シ議長ノ職務ヲ

行ハシムヘシ



第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ勅任セラルハマテハ仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク  
書記官長ハ勅任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス  
書記官ハ議事録及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス  
書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章 議長副議長及議員歳費

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院ノ被選及勅任議員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク但シ召集ニ應セサル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ス

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受クルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多カ  
ラサル手當ヲ受ク

第四章 委員

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三類トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ選舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ選舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス

第二十二條 全院委員會ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス



第二十三條 常任委員會及特別委員會ハ議員ノ外傍聴ヲ禁ス

但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聴ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシテ  
議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政  
府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十七條 法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ但シ政府ノ要求若クハ議員十  
人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキ  
ハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得

但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモ  
ノハ二十人以上ノ賛成アルコト非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏  
上スヘシ

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五  
十四條第三項ノ規定ニ依ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラル、モノハ次ノ會期  
マテニ公布セラルヘシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得  
議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ



第三十四條 衆議院ノ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラサルモノハ後會ニ繼續セス但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ハ勅命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 秘密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開ヲ停ムルコトヲ得

- 一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ
- 二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用弗スシテ可否ノ決ヲ取ルヘシ

第三十九條 秘密會議ハ刊行スルコトヲ許サス

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取

リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上ノ賛成アルコト非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ斷スヘシ但シ之カ爲ニ議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數ニ預カラス

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國務



大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問

第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ賛成者アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作リ賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辯ヲ爲シ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ若答辯ヲ爲サハルトキハ其ノ理由ヲ示明スヘシ

第五十條 國務大臣ノ答辯ヲ得又ハ答辯ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議

第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ講見

ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ

第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルコト非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章 兩議院關係

第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ

乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ノ修正ニ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト



同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若之ニ同意セザルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ

甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各十人以下同數ノ委員ヲ選舉シ會同セシム委員

ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

協議會ニ於テ成立シタル成案ニ對シテハ更ニ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許サス

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述ルコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用非可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各一員ヲ互選シ每會更代ノ席

ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於ケル議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其ノ協議ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第十三章 請願

第六十二條 各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム  
請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスト認ムルキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下スヘシ

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ錄シ每週一回議院ニ報告スヘシ  
請願委員特別ノ報告ニ依レハ要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其

ノ請願事件ヲ會議ニ付スヘシ

第六十五條 各議院ニ於テ請願ノ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送附シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得



第六十六條 法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ヲ除ク外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用ウヘシ若請願ノ名義ニ依ラス若クハ其ノ體式ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用ヰ政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用ヰルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受ルコトヲ得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セス

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ

政府ハ秘密ニ涉ルモノヲ除ク外其ノ求ニ應ズルコトヲ得ス

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラレタルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ選舉法ニ記載シタル被選ノ資格ヲ失ヒタルトキハ退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シ之ヲ審査セシメ其報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セララルニ至ルマデハ議院ニ於テ位列及發言



ノ權ヲ失ハス但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辨明スルコトヲ得ルモ其ノ  
表決ニ預カルコトヲ得ス

第十六章 請假辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請假ヲ許可スルコトヲ得其ノ一  
週間ヲ超ユルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ナキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス  
第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スノ會議又ハ委員會ニ出席  
スルコトヲ得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ内務大  
臣ニ通牒シ補闕撰擧ヲ求ムヘシ

第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此ノ法律及各議院  
ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシ

第八十七條 會議中議員此ノ法律若クハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキ  
ハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當  
日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉  
ツルコトヲ得

第八十九條 傍聽人議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場スシメ必要ナル場  
合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得  
第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚  
起スルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス



第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用ヰルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章 懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク

懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

一 公開シタル議場ニ於テ罷責ス

二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム

三 一定ノ時間出席ヲ停止ス

四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ

第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再選ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得

懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應ゼサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ出席スルニ由リ若クハ請暇ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ



朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選舉法及附録ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ帝國  
議會ヲ召集スルノ年ヨリ本法ニ依リ選舉ヲ施行セシムヘキコトヲ命ス

# 御名御璽

明治二十二年二月十一日

- 内閣總理大臣 伯爵黑田清隆
- 樞密院議長 伯爵伊藤博文
- 外務大臣 伯爵大隈重信
- 海軍大臣 伯爵西鄉從道
- 農商務大臣 伯爵井上馨
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣兼內務大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山巖
- 文部大臣 伯爵森有禮
- 遞信大臣 子爵榎本武揚



法律第三號

衆議院議員選舉法

第一章 選舉區畫

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシム其ノ選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ定員ハ此ノ法律ノ附録ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス

一 選舉區ノ選舉ハ郡長又ハ市長其ノ選舉長トナリ之ヲ管理ス

第三條 一 選舉區ニシテ數郡市ニ涉ルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ一人ヲ命ジ選舉長トラシムヘシ

第四條 一 市ノ域内ニ於テ數選舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ選舉長トラシムヘシ

第五條 選舉ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スルシ

第二章 選舉人ノ資格

第六條 選舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齡滿二十五歲以上ノ者

第二 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居シ仍引續キ住居スル者

第三 選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第七條 家督ニ由リ財産ヲ相續シタル者ハ其ノ財産ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其ノ納稅資格ニ算入ス

第三章 被選人ノ資格

第八條 被選人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上コトヲ選舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ選舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍引續



キ納ムル者スルヘシ

但シ所得税ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

第九條 宮内官裁判官會計検査官收税官及警察官ハ被選人タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限ハ議員ト相兼スルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其管轄區域内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十一條 選舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ選舉セラレ當撰ヲ承諾シタルトキハ其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス

#### 第四章 撰舉人及被撰人ニ通スル規定

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ル者ハ撰舉人及被撰人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若クハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七 撰舉ニ關ル犯罪ニ由リ撰舉權及被撰權ノ停止中ノ者

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中撰舉權ヲ行フコトヲ得ス及被撰人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ撰舉人及被撰人タルコトヲ得ス

第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ撰舉權ヲ行フコトヲ得ス及被撰人タルコトヲ得ス



第五章 撰舉人名簿

第十八條 撰舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域内ニ於テ撰舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ

撰舉人名簿ハ撰舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國稅ノ總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ選舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ選舉長ニ差出サシムヘシ

第三 郡市ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二十條 選舉人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若クハ區長ノ證狀ヲ得テ選舉人名簿製調ノ期日マテニ其ノ投票ヲ管廻スル町村長又ハ市長若クハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條 選舉長ハ各町村長又ハ市長若クハ區長ヨリ差出シタル撰舉人名簿ヲ合シ一撰舉區ヲ以テ一冊トシ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若クハ區役所ニ備置キ其ノ副本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ

第二十二條 撰舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一撰舉區撰舉人名簿ノ寫ヲ其ノ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若クハ區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ

第二十三條 凡テ撰舉資格アル者撰舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證憑ヲ具ヘテ縦覽期限内ニ撰舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得



キ納ムル者タルヘシ

但シ所得税ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ムル者ニ限ル

三十六

第九條 宮内官裁判官會計検査官收税官及警察官ハ被選人タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限ハ議員ト相兼スルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其管轄區域内ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十一條 選舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ選舉區ニ於テ被選人タルコトヲ得ス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被選人タルコトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ選舉セラレ當撰ヲ承諾シタルトキハ其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス

第四章 撰舉人及被撰人ニ通スル規定

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ル者ハ撰舉人及被撰人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

三 公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ停止中ノ者

四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若クハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七 撰舉ニ關ル犯罪ニ由リ撰舉權及被撰權ノ停止中ノ者

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中撰舉權ヲ行フコトヲ得ス及被撰人タルコトヲ得ス其ノ休職停職ニ在ル者亦同シ

第十六條 華族ノ當主ハ衆議院議員ノ撰舉人及被撰人タルコトヲ得ス

第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ撰舉權ヲ行フコトヲ得ス及被撰人タルコトヲ得ス

三十七



第五章 選舉人名簿

三十八

第十八條 選舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域内ニ於テ選舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿二本ヲ調製シ同月二十日マテニ其ノ一本ヲ差出サシムヘシ

選舉人名簿ハ選舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國稅ノ總額並ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ選舉長其ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ選舉長ニ差出サシムヘシ

第三 郡市ヲ合シテ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ選舉長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿ヲ調製スヘシ

第二十條 選舉人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ町村長又ハ市長若クハ區長ノ證狀ヲ得テ選舉人名簿調製ノ期日マテニ其ノ投票ヲ管理スル町村長又ハ市長若クハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條 選舉長ハ各町村長又ハ市長若クハ區長ヨリ差出シタル選舉人名簿ヲ合シ一選舉區ヲ以テ一冊トシ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若クハ區役所ニ備置キ其ノ副本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ

第二十二條 選舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一選舉區選舉人名簿ノ寫ヲ其ノ選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若クハ區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ

第二十三條 凡テ選舉資格アル者選舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其理由書及證憑ヲ具ヘテ縦覽期限内ニ選舉長ニ申立テ其ノ改正ヲ求ムルコトヲ得

三十九



縦覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其ノ効ナシ

第二十四條 撰舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審査シ申立  
ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若其ノ申立ヲ以テ正當ナリト判定シ  
タルトキハ直ニ其ノ人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若クハ區長  
ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第二十五條 撰舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審査シ必要  
ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内  
ニ之ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所  
在地ノ町村長又ハ市長若クハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ撰舉長ノ判定ニ服セサルトキハ撰舉長ヲ被告ト  
シ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラ  
ズ速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判所ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上  
告スルコトヲ得

第二十九條 撰舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ据  
置クヘシ但シ裁判言渡書ニ依リ改正スヘキモノハ撰舉長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取リ  
タル時ヨリ二十四時内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村長又ハ  
市長若クハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第六章 撰舉ノ期日及投票所

第三十條 撰舉ノ投票ハ通常七月一日之ヲ行フ但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ  
勅令ヲ以テ臨時撰舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之  
ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ撰舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設クルコ足ラサルトキハ數  
町村ヲ合併スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ認可ヲ經テ合併ノ町村



及投票所並ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人二名以上  
五名以下ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日投  
票所ニ參會セシムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ鑰ヲ設ケ其ノ一ハ町村長之ヲ管守シ其ノ  
一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル選舉人ノ面前ニ於テ投  
票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 選舉人ハ選舉ノ當日本人自ラ投票所ニ至リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票  
スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ各府縣各一定ノ式ヲ用テ選舉ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨ  
リ之ヲ各選舉人ニ交付スヘシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被選舉人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ住所姓名ヲ記載  
シテ捺印スヘシ

第三十九條 選舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由ヲ申立ツルトキハ町村長ハ吏  
員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記  
載スヘシ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ選舉スヘキ選舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ウヘシ

第四十一條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿  
ニ記載セラルヘキ裁判官渡書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長  
ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由ヲ告ケ投票函ヲ閉鎖ス  
ヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス



第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若クハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條 一撰舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情况アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ選舉ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ撰舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 選舉會

第四十六條 撰舉會ハ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若クハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 撰舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ撰舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第四十八條 撰舉長ハ投票函送達ノ翌日撰舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其

ノ由ニ撰舉明細書ニ記載スヘシ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ撰舉長ハ撰舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十條 各撰舉區ノ撰舉人ハ其ノ撰舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 左ニ掲クル投票ハ無効トス

一 撰舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判官渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 成規ノ用紙ヲ用非サルモノ

三 撰舉人自己ノ姓名ヲ記載セサルモノ

四 資格ナキ被撰人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ効アルモノトス

五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ選舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用非又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス



六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用キタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ選舉委員ノ意見ヲ聞キ選舉長之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 無効ノ投票ハ扶線ヲ加ヘ其ノ由ヲ選舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ選舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其ノ撰舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條 投票ハ六十日間郡投所又ハ市役所若クハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十六條 撰舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

第五十七條 撰舉長ハ撰舉明細書ヲ作り撰舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ撰舉委員ト共ニ署名シ之ヲ保存スヘシ

### 第九章 當選人

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當選人トス投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當選人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條 當選人定マリタルトキハ選舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當選人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條 當選人當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ



第六十二條 一人ニシテ數選舉區ノ當選人トナリタル者當選ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ選舉區ノ當選ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條 當選人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト見做スヘシ

第六十四條 當選人ニシテ其ノ當選ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當選ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ選舉ノ期日ヲ定メ其ノ選舉長ニ命シ再ヒ選舉ヲ行ハシムヘシ但シ第五十八條第二項ノ場合ニ於テ抽籤ニ依リ當選ヲ得タル者其ノ當選ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタル者ヲ以テ當選人ト定ムヘシ

第六十五條 各選舉區ノ當選人確定シタルトキハ府縣知事ハ當選證書ヲ付與シ及管内ニ告示シ並ニ當選人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章 議員ノ任期及補闕選舉

第六十六條 議員ノ任期ハ四箇年トス但シ任期ヲ終リタル後仍選舉ニ應スルコトヲ得

第六十七條 議員ノ闕員アルニ由リ内務大臣ヨリ補闕選舉ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタ

ルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ闕員ノ選舉區ニ限リ臨時選舉ヲ行ヒ補闕議員ヲ撰擧セシムヘシ

第六十八條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十一章 投票所取締

第六十九條 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第七十條 凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十一條 撰擧人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演説討論及喧譟ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

第七十四條 投票所ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル



爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ル、コトヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル撰舉人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ中立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十七條 撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若クハ區役所ニ於テ撰舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十三條ニ至ルマテノ例ニ照シ撰舉長之ヲ處分スヘシ

第十二章 當撰訴訟

第七十八條 各撰舉區ニ於テ當撰ヲ失ヒタル者當撰人ノ當撰ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當撰人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケタル當撰人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金三百圓又ハ之ニ相當スル公債證書

ヲ控訴院書記局ニ預置クヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ納完セサルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第八十一條 同一ノ當撰人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ一ノ裁判言渡書ヲ以テ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條 審判中衆議員解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下クルトキハ同時ニ其由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條 控訴院ハ當撰訴訟ヲ審判スルニ當リ本訴ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲ以テ立會ハシムヘシ

當撰訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス



第八十五條 控訴院ニ於テ當撰訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判官渡書ノ謄本ヲ内務大臣ニ送付スヘシ若衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ

第八十六條 當撰訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十七條 訴訟ノ目的タル當撰人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條 當撰訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノノ外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章 罰則

第八十九條 納稅額年齢住所及其ノ他撰舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ撰舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ撰舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ撰舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サル者亦同シ

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ撰舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條 撰舉人ニ暴行ヲ加ヘテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 撰舉人ヲ強逼シ又ハ投票所若クハ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ囂聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス



其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十五條 撰擧ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若クハ撰擧會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ却奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一第ヲ加フ

第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス  
犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若クハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前三條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ効ナキ者モ仍本刑ニ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ投票所若クハ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上

三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當撰人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當撰ハ無効トス

第一百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依リ選舉人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下撰擧權及被撰擧權ヲ停止ス

第一百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第一百四條 凡テ撰擧ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス



第二百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示スヘシ

第十四章 補則

第百六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第四條ノ場合ニ於テハ一選舉區ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第百七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル選舉區内ニ於ケル選舉人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人通知シ選舉ノ當日選舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ點檢スヘシ

此ノ場合ニ於ケル選舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ

第百八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル選舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ

第百九條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ルヘシ

第百十條 選舉人名簿調製ノ初年ニ限り所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ツルモノト見做スヘシ

第百十一條 北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ進行スルノ時ニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行セヌ



衆議院議員撰舉法附錄

東京府

第一區 麩町區  
 第二區 赤坂區  
 第三區 芝區  
 第四區 京橋區  
 第五區 日本橋區  
 第六區 深川區  
 第七區 淺草區  
 第八區 神田區

議員總數十二人

一 人  
 一 人  
 一 人  
 一 人  
 一 人  
 一 人  
 一 人

京都府

第八區 本郷區  
 第九區 小石川區  
 第十區 牛込區  
 第十一區 四谷區  
 第十二區 東區  
 第十三區 南區  
 第十四區 北區  
 第十五區 南區  
 第十六區 南區  
 第十七區 南區  
 第十八區 南區  
 第十九區 南區  
 第二十區 南區  
 第一區 上京區  
 第二區 下京區

議員總數七人

一 人  
 一 人  
 一 人  
 一 人  
 一 人  
 一 人  
 一 人



區四第	區三第	區二第	區一第	神奈川縣	區九第	區八第	區七
鎌三	北西南都橋久	橫	日南	泉大塚	磯大丹	志丹	
倉浦	多多多	筑樹	根	鳥	川縣北紀南		
郡郡	郡郡郡	郡郡郡	區	郡郡	區郡郡	郡郡	
一	二	一	一	議員總數七人	一	一	
人	人	人	人		人	人	

區四第	區三第	區二第	區一第	兵庫縣	區六第	區五第
美明八	水多	有川莞武	神	足足	大津愛高	久甲座
磯石部	上紀	馬邊原庫	戶	柄柄	綾住	井
郡郡郡	郡郡	郡郡郡	區	郡郡郡	郡郡郡	郡郡
一	一	一	一	議員總數十二人	一	一
人	人	人	人		人	人

六十一

區一第	大阪府	區六第	區五第	區四第	區三第
西	熊竹中與加	何天船北南	綴相久宇	紀乙葛愛	
	野野	謝佐	鹿田井	喜樂世治	伊訓野岩
區	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡
一	一	二	一	一	
人	人	人	人	人	人

區一第	區六第	區五第	區四第	區三第	區二第
錦安古八石高	河設交茨能豐島島	住東西	南	北東	
宿市	上川安江內	野田勢島下上	吉成成		
郡郡	郡郡郡	郡郡郡	郡郡	區	區
一	一	一	二	一	一
人	人	人	人	人	人

六十二



新瀨縣							議員總數十三人
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	
新瀨郡	西浦原郡	北浦原郡	東浦原郡	中浦原郡	南浦原郡	古志郡	
一	一	二	二	一	二	二	
人	人	人	人	人	人	人	

長崎縣						議員總數七人
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	
長崎郡	西彼杵郡	東彼杵郡	北彼杵郡	南高來郡	下上縣郡	
二	一	一	一	一	一	
人	人	人	人	人	人	

長崎縣							議員總數八人
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	
新足立郡	北足立郡	南葛飾郡	北葛飾郡	中葛飾郡	大葛飾郡	男木郡	
一	一	二	二	二	二	二	
人	人	人	人	人	人	人	

長崎縣							議員總數七人
區一第	區二第	區三第	區四第	區五第	區六第	區七第	
長崎郡	西彼杵郡	東彼杵郡	北彼杵郡	南高來郡	下上縣郡	男木郡	
二	一	一	一	一	一	一	
人	人	人	人	人	人	人	



區五第	區四第	區三第	區二第	區一第	茨城縣	區八第
新筑	猿西岡結豐	真西	那久多	行鹿東	茨城縣	長朝平安
治波	島葛田城田	壁茨城	珂慈賀	方嶋		狹夷房
郡郡	郡郡郡郡郡	郡郡	郡郡郡	郡郡郡		郡郡郡郡
一	一	一	二	二	議員總數八人	一
人	人	人	人	人		人

區五第	區四第	區三第	區二第	區一第	群馬縣	區五第
碓氷	吾片西	南多綠	那佐邑山新	北利南東	群馬縣	秩那賀兒
水	妻岡馬	胡野波位樂田	勢根多	勢多馬		父珂美玉
郡郡	郡郡郡	郡郡郡郡郡	郡郡郡郡郡	郡郡郡郡郡		郡郡郡郡
一	一	一	一	一	議員總數五人	一
人	人	人	人	人		人

區一第	奈良縣	區四第	區三第	區二第	區一第	栃木縣	區六第
平廣山添添	奈良縣	那塩	梁足安寒	下上都	芳河	栃木縣	北河信
群瀬邊下上		須谷	田利蘇川	都賀賀	賀內		相內太
郡郡郡郡郡		郡郡	郡郡郡郡	郡郡	郡郡		馬郡郡
一	議員總數四人	一	一	二	一	議員總數五人	一
人		人	人	人	人		人

區七第	區六第	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第	千葉縣
天周望長上	夷	武山	匝海	香	南印東	市千	千葉縣
羽准陀柄	堯隅	射邊	礎上	取	相植旆	原葉	
郡郡郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡	郡郡郡	郡郡	
一	一	一	一	一	二	一	議員總數九人
人	人	人	人	人	人	人	

六十五

六十四



區一十第 區十第 區九第 區八第 區七第 區六第 區五第 區四第  
 八渥 寶南北東西額 幡碧 知 海海 中 葉丹  
 名美 飯 設設加加 田 豆海 多 西東 島 栗羽  
 郡郡 郡郡郡郡郡郡 郡郡 郡 郡郡 郡 郡郡 郡 郡郡

一 一 一 一 一 一 一 一  
 人 人 人 人 人 人 人 人

區六第 區五第 區四第 區三第 區二第 區一第 靜岡縣  
 龜引濱敷長 磐山豐周 城佐榛 益志 處富 有安  
 玉佐名知上 田名田智 東野原 津太 原士 渡倍  
 郡郡郡郡郡 郡郡郡郡 郡郡郡 郡郡 郡郡 郡郡

一 一 一 一 一 一  
 人 人 人 人 人 人

六十七

議員總數八人

區三第 區二第 區一第 三重縣  
 朝貝桑 河奄鈴三 一安  
 明辦名 曲藝鹿重 志濃  
 郡郡郡 郡郡郡郡 郡郡 郡 郡郡 郡 郡郡

一 一 一 一 二  
 人 人 人 人 人

議員總數七人

區三第 區二第 區一第 愛知縣 區六第 區五第 區四第  
 西東春春日井 愛 知 名古屋 伊名山阿 南北英答度多飯飯  
 郡郡郡 郡 郡 郡 賀張田拜 牟牟 虞志會氣野高  
 郡郡郡 郡郡郡 郡郡郡 郡郡郡 郡郡郡 郡郡郡

一 一 一 一 二 一  
 人 人 人 人 人 人

議員總數十一人

六十六



長野縣		區七第	區六第	區五第	區四第
區二第	區一第	吉益大	惠土可加	郡武	山席本池大
下上下	更上	城田野	那岐兒茂	上儀	縣田巢田野
高高水	級水	郡郡郡	郡郡郡	郡郡	郡郡郡郡郡
井井內	級內				
郡郡郡	郡郡				
一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人
議員總數八人					

滋賀縣		區三第	區二第	區一第	山梨縣	區七第
區二第	區一第	南西東	北南東	中北西	駿田君賀那	駿田君賀那
栗野甲	高滋	巨八八	都都山	巨巨山	東方澤茂賀	東方澤茂賀
栗州賀	島賀	摩代代	留留梨	摩摩梨	郡郡郡郡郡	郡郡郡郡郡
郡郡郡	郡郡	郡郡郡	郡郡郡	郡郡郡		
一	一	一	一	一	二	二
人	人	人	人	人	人	人
議員總數五人						議員總數三人

宮城縣		區七第	區六第	區五第	區四第	區三第
區二第	區一第	下	諏上	北南	北南東	直小
亘伊刈柴	宮名仙	伊	伊	佐佐	安安筑筑	科縣
理具田田	城取臺	那	那	久久	曇曇摩摩	郡郡
郡郡郡	郡郡郡	郡	郡	郡郡	郡郡郡	郡郡
二	一	一	一	一	二	一
人	人	人	人	人	人	人
議員總數五人						

岐阜縣		區三第	區二第	區一第	區四第	區三第
區三第	區二第	中羽上	多下海	安不	各方厚	蒲神愛犬
島栗	石石	八破	務縣見	阪伊東	西淺淺	生崎知上
郡郡	津津	郡郡	郡郡	郡郡郡	田香井	郡郡郡
郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡郡	郡郡郡
一	一	一	一	一	一	二
人	人	人	人	人	人	人
議員總數七人						



山形縣	區三第	區二第	區一第	青森縣	區五第	區四第	區三第
	西津輕郡	中津輕郡	南北津輕郡		東津輕郡	東盤井郡	西盤井郡
	三	二	一		東	西	東
	人	人	人		人	人	人
議員總數六人				議員總數四人			

福島縣	區三第	區二第	區一第	區五第	區四第	區三第
	石川郡	西白川郡	東白川郡		安積郡	田沼郡
	二	一	一			
	人	人	人			
議員總數七人						

秋田縣	區三第	區二第	區一第	區四第	區三第	區二第	區一第
	由利郡	河邊郡	鹿角郡		山北郡	山本郡	山本郡
	一	一	一		一	二	二
	人	人	人		人	人	人
議員總數五人							

巖手縣	區二第	區一第	區五第	區四第
	北九戸郡	南九戸郡		
	一	二		
	人	人		
議員總數五人				



島根縣		鳥取縣			
區二第	區一第	區三第	區二第	區一第	
飯大仁能意秋島		日會汗八久河氣高智八八殿法邑			
石原多義字鹿根		野見入橋米村多草頭東上井美美			
郡郡郡郡郡郡		郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡			
一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人
議員總數六人		議員總數三人			

石川縣					福井縣	
區一第	區四第	區三第	區二第	區一第	區四第	
石金	敦大遠三	丹今南	阪吉	大足	雄平仙	
川澤	賀飯敷方	生立條	井田	野羽	勝鹿北	
郡區	郡郡郡郡	郡郡郡	郡郡	郡郡	郡郡郡	
二	一	一	一	一	二	
人	人	人	人	人	人	
議員總數六人					議員總數四人	

岡山縣		富山縣			
區二第	區一第	區六第	區五第	區四第	區三第
和磐赤津兒邑上御岡		知海穩周鹿美那邑安邇神楯出			
氣梨阪高島久道野山		夫土地吉足濃賀智濃摩門縫雲			
郡郡郡郡郡郡		郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡郡			
一	二	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人
議員總數八人		議員總數五人			

富山縣				福井縣		
區四第	區三第	區二第	區一第	區四第	區三第	區二第
蠟	射	下	婦上	珠鳳	鹿羽河	江能
波	水	新	負新	洲至	島咋北	沼美
郡	郡	川	川	郡郡	郡郡郡	郡郡
二	一	一	二	一	二	一
人	人	人	人	人	人	人
議員總數五人				議員總數五人		



區四第	區三第	區二第	區一第	山口縣	區九第	區八第
大熊郡	豐赤間郡	大見津郡	阿佐郡		惠三郡	品蓋郡
島毛郡	浦關郡	島武郡	波狹郡	議員總數七人	蘇上郡	石治郡
郡	郡	郡	郡		郡	郡
二	一	一	二		一	一
八	八	八	八		八	八

區七第	區六第	區五第	區四第	區三第
久米郡	英吉郡	勝勝郡	東東郡	西西郡
北條郡	田野郡	南北郡	庭島郡	賀多郡
郡	郡	郡	郡	郡
一	一	一	一	一
八	八	八	八	八

區二第	區一第	德島縣	區三第	區二第	區一第	和歌山縣	區五第
海那郡	勝名郡		東牟婁郡	西牟婁郡	日高郡	那賀郡	伊都郡
郡	郡	議員總數五人	郡	郡	郡	郡	郡
一	一		二	一	二	二	一
八	八		八	八	八	八	八

區七第	區六第	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第	廣島縣
世御羅郡	豐田郡	加茂郡	三三郡	高田郡	山宮郡	沼高郡	安藝島郡
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	區
一	一	一	一	一	一	二	議員總數十人
八	八	八	八	八	八	八	

七十五

七十四



福岡縣				高知縣			區六第	
二第	區一第	區三第	區二第	區一第	區一第	區二第	區三第	區四第
御那宗	早志怡	安香	吾高幡	長土	北南	宇宇	和和	郡郡
郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡
	一	一	一	一	一			
	人	人	人	人	人			
	議員總數九人			議員總數四人				

香川縣				區五第			區四第		區三第	
區四第	區三第	區二第	區一第	區五第	區四第	區三第	區二第	區一第	區五第	區三第
那多	阿鴉	三寒大	小山香	三美	板	麻阿	名	西	郡	郡
郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
一	一	一	一	一	一	一				
人	人	人	人	人	人	人				
				議員總數五人						

區七第		區六第		區五第		區四第		區三第		區二第		區一第	
田企	三山	下上三	竹生山御	穗嘉鞍遠	夜下王	須座	須座	須座	須座	須座	須座	須座	須座
川救	池門	妻妻	野葉本原井	渡麻手賀	須座	須座	須座	須座	須座	須座	須座	須座	須座
郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

區五第		區四第		區三第		區二第		區一第		愛媛縣		區五第	
東西	宇新	上喜	周桑越	下伊久野	風和	温	三	豐	野	田	郡	郡	郡
宇和	摩居	浮多	布村智	浮穴	豫米	間早	氣泉	野	田	郡	郡	郡	郡
郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡郡	郡	郡	郡	郡	郡
一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	一			
人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人			
									議員總數七人				











會計法

第一章 總則

第一條 政府ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ關ル事務ハ翌年度十一月三十日マテニ悉皆完結スヘシ

第二條 租稅及其ノ他一切ノ收納ヲ歳入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ總豫算ニ編入スヘシ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條 各官廳ニ於テハ法律勅令ヲ以テ規定シタルモノノ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得ス

第二章 豫算

第五條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ帝國議會集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ之ヲ經常臨時ノ二部ニ大別シ各部中ニ於テ之ヲ款項ニ區分スヘシ

總豫算ニハ帝國議會參考ノ爲ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省ノ豫定經費要求書但シ各項中各目ノ明細ヲ記入スヘシ

第二 其ノ年三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現計書

第七條 豫算中ニ設クヘキ豫備費ハ左ノ二項ニ分ツ

第一 豫備金

第二 豫備金

第一 豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス

第二 豫備金ハ豫算外ハ生シタル必要ノ費用ニ充ツルモノトス

第八條 豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度經過後帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス

第九條 毎年度大藏省證券發行ノ最高額ハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ム



### 第三章 收入

八十四

第十條 租稅及其ノ他ノ歳入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收スヘシ  
法律命令ニ依リ當該官更ノ資格アル者ニ非サレハ租稅ヲ徵收シ又ハ其ノ他ノ歳入ヲ  
收納スルコトヲ得ス

### 第四章 支出

第十一條 每會計年度ニ於テ政府ノ經費ニ充ツル所ノ定額ハ其ノ年度ノ歳入ヲ以テ之  
ヲ支辨スヘシ

第十二條 國務大臣ハ豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此  
流用スルコトヲ得ス

國務大臣ハ其ノ所管ニ屬スル收入ヲ國庫ニ納ムヘシ直ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十三條 國務大臣ハ其ノ所管定額ヲ使用スル爲ニ國庫ニ向ヒテ仕拂命令ヲ發スヘシ  
但シ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ他ノ官吏ニ委任シテ仕拂命令ヲ發セシムルコトヲ得

第十四條 國庫ハ法律命令ニ反スル仕拂命令ニ對シテ仕拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條 國務大臣ハ政府ニ對シ正當ナル債主若シハ其ノ代理人ヲ爲ニスルニ非サレ  
ハ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ス

左ノ諸項ノ經費ニ限リ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委  
任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲ニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得

#### 第一 國債ノ元利拂

第二 軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費

第三 在外各廳ノ經費

第四 前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第五 運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

第六 廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總費額五百圓ニ滿タサルモノ

第七 場所ノ一定セサル事務所ノ經費

第八 各廳ニ於テ直接ニ從事スル工事ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓迄ヲ限ル

### 第五章 決算

八十五



第十六條 會計検査院ノ検査ヲ經テ政府ヨリ帝國議會ニ提出スル總決算ハ總豫算ト同

一ノ様式ヲ用ヰ左ノ事項ノ計算ヲ明記スヘシ

歳入ノ部

歳入豫算額

調定濟歳入額

收入濟歳入額

收入未濟歳入額

歳出ノ部

歳出豫算額

豫算決定後増加歳出額

仕拂命令濟歳出額

翌年度繰越額

第十七條 前條ノ總決算ニハ會計検査院ノ検査報告ト俱ニ左ノ文書ヲ添附スヘシ

第一 各省決算報告書

第二 國債計算書

第三 特別會計計算書

第六章 期滿免除

第十八條 政府ノ負債ニシテ其ノ仕拂フヘキ年度經過後滿五箇年內ニ債主ヨリ支出ノ請求若シハ仕拂ノ請求ヲ爲サ、ルモノハ期滿免除トシテ政府ハ其ノ義務ヲ免ル、モ  
ノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各、其ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 政府ニ納ムヘキ金額ニシテ其ノ納ムヘキ年度經過後滿五箇年內ニ上納ノ告知ヲ受ケサルモノハ其ノ義務ヲ免ル、モノトス但シ特別ノ法律ヲ以テ期滿免除ノ期限ヲ定メタルモノハ各、其ノ定ムル所ニ依ル

第七章 歳計剩餘定額繰越豫算外收入及定額戻入

第二十條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ其ノ翌年度ノ歳入ニ繰入ルヘシ



第二十一條 豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲ニ事業ヲ遅延シ年度内ニ其ノ經費ノ支出ヲ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十二條 數年ヲ期シテ竣功スヘキ工事製造及其ノ他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得

第二十三條 誤拂過渡トナリタル金額ノ返納出納ノ完結シタル年度ニ屬スル収入及其ノ他一切豫算外ノ収入ハ總テ現年度ノ歳入ニ組入ルヘシ但シ法律勅令ニ依リ前金渡概算渡繰替拂ヲ爲シタル場合ニ於ケル返納金ハ各々之ヲ仕拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入ルコトヲ得

第八章 政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

第二十四條 法律勅令ヲ以テ定タル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告ノ競争ニ付スヘシ但左ノ場合ニ於テハ競争ニ付セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得ヘシ  
第一 一人又ハ一會社ニテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ルコトキ

第二 政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

第三 非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競争ニ付スル暇ナキトキ

第四 特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

第五 特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ルコトキ

第六 土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其ノ位置又ハ構造等ニ限アル場合

第七 五百圓ヲ超エサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

第八 見積價格二百圓ヲ超エサル動産ヲ賣拂フトキ

第九 軍艦ヲ買入ルコトキ

第十 軍馬ヲ買入ルコトキ

第十一 試験ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ルコトキ



第十二條 慈惠ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ備役シ及其ノ生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ

第十三條 囚徒ヲ備役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ル、トキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其ノ生産又ハ製造物品ヲ買入ル、トキ

第十四條 政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈惠教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及囚徒ノ製造物品ヲ買拂フトキ

第二十五條 軍艦兵器彈藥ヲ除外工事製造又ハ物件買入ノ爲ニ前金拂ヲ爲スヲ得ス

第九章 出納官吏

第二十六條 政府ニ屬スル現金若クハ物品ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ハ其ノ現金若クハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ

第二十七條 前條ノ官吏水火盜難又ハ其他ノ事故ヨリ其ノ保管スル所ノ現金若クハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其ノ保管上避ケ得ヘカラサリシ事實ヲ會計検査院ニ證明シ責任解除ノ判決ヲ受クルニ非サレハ其ノ負擔ノ責ヲ免ル、コトヲ得ス

第二十八條 現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルニ付身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十九條 仕拂命令ノ職務ハ現金出納ノ職務ト相兼メルコトヲ得ス

第十章 雜則

第三十條 特別ノ須要ニ因リ本法ニ準據シ難キモノアルトキハ特別會計ヲ設置スルコトヲ得

特別會計ヲ設置スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十一條 政府ハ國庫金ノ取扱ヲ日本銀行ニ命スルコトヲ得

第十一章 附則

第三十二條 本法ノ條項帝國議會ニ關涉セサルモノハ明治二十三年四月一日ヨリ施行シ其ノ關涉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ施行ス

決算ニ係ル條項ハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歲計ヨリ施行ス

第三十三條 本法ノ條項ト牴觸スル法令ハ各、其ノ條項施行ノ日ヨリ廢止ス



朕大日本帝國憲法ノ明文ニ依リ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ貴族院令ヲ發布ス此ノ勅令ヲ實  
施スルノ時期ハ朕カ更ニ命スル所ニ依ルヘシ

# 御名御璽

明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣	伯爵黑田清隆
樞密院議長	伯爵伊藤博文
外務大臣	伯爵大隈重信
海軍大臣	伯爵西郷從道
農商務大臣	伯爵井上馨
司法大臣	伯爵山田顯義
大藏大臣兼內務大臣	伯爵松方正義
陸軍大臣	伯爵大山巖
文部大臣	伯爵森有禮
遞信大臣	伯爵榎本武揚



勅令第十一號

貴族院令

第一條 貴族院ハ左ノ議員ヲ以テ組織ス

一 皇族

二 公侯爵

三 伯子男爵各、其ノ同爵中ヨリ撰舉セラレタル者

四 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者

五 各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互撰シテ勅任セラレタル者

第二條 皇族ノ男子成年ニ達シタルトキハ議席ニ列ス

第三條 公侯爵ヲ有スル者滿二十五歳ニ達シタルトキハ議員タルヘシ

第四條 伯子男爵ヲ有スル者ニシテ滿二十五歳ニ達シ各、其ノ同爵ノ撰ニ當リタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ撰舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項議員ノ數ハ伯子男爵各、總數ノ五分ノ一ヲ超過スヘカラス

第五條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル滿三十歳以上ノ男子ニシテ勅任セラレタル者ハ終身議員タルヘシ

第六條 各府縣ニ於テ滿三十歳以上ノ男子ニシテ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人ノ中ヨリ一人ヲ互撰シ其ノ撰ニ當リ勅任セラレタル者ハ七箇年ノ任期ヲ以テ議員タルヘシ其ノ撰舉ニ關ル規則ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者及各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ヨリ勅任セラレタル議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スルコトヲ得ス

第八條 貴族院ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ華族ノ特權ニ關ル條規ヲ議決ス

第九條 貴族院ハ其ノ議員ノ資格及撰舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス其ノ判決ニ關ル規則ハ貴族院ニ於テ之ヲ議定シ上奏シテ裁可ヲ請フヘシ

第十條 議員ニシテ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者アルトキハ勅命ヲ以テ之ヲ除名スヘシ



貴族院ニ於テ懲罰ニ由リ除名スヘキ者ハ議長ヨリ上奏シテ勅裁ヲ請フヘシ  
除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニ非サレハ再ヒ議員トナルコトヲ得ス

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セララルヘシ

被撰議員ニシテ議長又ハ副議長ノ任命ヲ受ケタルトキハ議員ノ任期間其ノ職ニ就ク

ヘシ

第十二條 此ノ勅令ニ定ムルモノ、外ハ總テ議院法ノ條規ニ依ル

第十三條 將來此ノ勅令ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スルトキハ貴族院ノ議決ヲ經ヘシ

方今文運ノ旺盛ナル隨テ新著新篇ノ書陸續梓ニ上ルモノ  
月數十種ニ下ラス盛ンナリト云ベシ弊舖年來此業ヲ開キ  
幸ニ諸君ノ眷顧ヲ蒙ルテ厚クシテ日ニ盛業ニ赴ク真ニ感  
銘ニ堪ヘズ就テハ大方眷顧ノ諸君累年恩遇ノ萬一二報セ  
ント欲シ今後一層舉店奮勵シ官省府縣御藏版并ニ和漢洋  
新古ノ書籍印小賣トモ廉價ヲ專一トシ萬事注意ヲ加ヘ亦  
御不用品ハ精々高直ニ買入可申御藏版出版製本等ハ極メ  
テ入念ニ調達シ篤ク各位ノ御便利ヲ計リ廣ク御需用ニ應  
セント欲ス仰キ願クハ書ヲ求メ玉フノ諸君子高覽アラ  
ンヲ乞フ

畏三堂須原主人謹白



最近新書出版廣告

帝國法科大學教授頭法律大博士  
鳩山和夫先生校訂  
帝國法科大學林健先生譯述

新刻法律格言

○製本最上等クローズ金字字入  
○全一冊紙數百ページ餘  
○用紙ハ最上等舶來紙撰用シ  
○正價金三拾五錢送本費全國一紙金十八錢

本書ハ有名ナル法學博士ハートパーツブルーム氏ノ所著ニ  
シテ真理原則ノ城府格言ノ本尊トシテ世ニ知ラレタル法  
律格言ヲ抄譯シ猶ホ近世學者說ニ從ヒ參酌補述シタルモ  
ノナリ抑法律學ハ他ノ諸學藝ト異ニシテ特ニ之ヲ原理ニ  
考究セサルヘカラス而メ各國法律ノ種類繁多ニシテ其要  
其門ニ從テ一樣ナラス故ニ其學廣大ニシテ幽遠其書浩瀚  
ニシテ精微ナレハ其真理ヲ腦理ニ抽象スルハ洵ニ困難ナ  
リトス今法律格言ハ一般採用セル法律百般ノ真理原則ニ  
シテ文明國法典ノ根據タル正理公益必要ノ三大義ニ因由  
スルモノナレハ法規凡百ノ要旨ハ盡ク之ニ胚胎セリト謂  
フヘシ本書ハ著者カカヲ盡シ其最要ニシテ記臆シ易キモ  
ノヲ網羅撰擇シタルノミナラス亦其意義ヲ簡明ニ解説例



證スルヲカメ其例外若クハ制限アルモノハ諦ニ之ヲ示シ  
 人ヲシテ適用ニ臨ミ觀念スル所ヲ知ラシメタリ又其譯語  
 字法ハ嚴正簡潔ヲ守リ真義ヲ發出スルヲ主トシ各綱領格  
 言ノ下ニ助則トシテ數條ノ格言ヲ附シ相對照シテ明較タ  
 ラシメタルガ故ニ一タヒ之ヲ誦讀セハ前述ノ困難ヲ免カ  
 ル、ノミナラス法律試問ニ應セント欲スルノ士ハ場屋中  
 復タ苦心躊躇スルヲナカルヘシ且初學ノ人ハ之ニ依テ將  
 來學修ノ基礎ヲ得ヘク法官代言人其他法律ニ志アル者ノ  
 日用ノ參政ニ供シ其便益大ナルヘシ吾邦曩ニ既ニ刑法治  
 罪法ノ發布アリ今ヤ憲法ノ發布ニ接シ民法商法ノ如キモ  
 亦將ニ近ク其發布ヲ見ントス苟モ國民タル者誰カ法律ノ  
 大要ヲ知ルヲナクシテ可オランヤ左ニ本書ノ要目ヲ掲ク

江湖ノ諸君請フ高需ヲ賜ハンコトヲ  
 ○第一章公安ニ関スル格言 ○第二章王位ニ関スル格  
 言 ○第三章裁判職務及舉行ニ關スル格言 ○第四章論  
 理ニ關スル格言 ○第五章法ノ大原則 ○第六章財產獲  
 得使用移轉ニ關スル格言 ○第七章婚姻相續ニ關スル  
 格言 ○第八章證書解釋ニ關スル格言 ○第九章契約ニ  
 關スル格言 ○第十章證據法ニ關スル格言

第一板再板並ニ低價廣告

東京專修學校法學部  
 講師文學士久米金彌先生著

第二板  
 高等敬察論

○洋製紙綴美本全一冊  
 ○紙數二百三十五  
 ○普通定價一圓廿錢  
 ○舊實價金九十五錢  
 ○改正實價金五十錢



○久米君嘗テ本邦諸警察規則ヲ警官練習所ニ講述セラ  
 右書ハ前ニ出版ノ爾來需用過クシテ既ニ第一板ハ悉皆費  
 リ盡シ終リ更ニ第二板ヲ印刷シ販路ヲ平滑ニシテ社會公  
 衆ノ便益ヲ謀ラントス即チ此書ハ其講述中高等警察ニ關  
 スル者ヲ同君自ラ纂輯セラレタル者ニシテ首メニ警察ノ  
 目的作用權限區別ヲ説キ次ニ高等警察ノ本旨運用等ヲ論  
 シ遂ニ進テ高等警察ニ關スル事項ヲ逐一論述セラレ就中  
 集會結社ノ如キハ丁寧反覆辨明セラレタルモノナレハ職  
 ヲ警察ニアル諸君ハ勿論苟クモ眼ヲ社會上ニ注カル、諸  
 君ハ机上不可缺ノ良書ナリ今因右出版者ヨリ譲與ヲ受タ  
 ルヲ以テ裝釘ノ虛美ヲ去リ廉價ヲ旨トシ以テ江湖諸君ノ  
 便益ヲ謀ラントス冀クハ幸ニ愛讀ヲ給ヘ

東京日本橋區本石町一丁目廿五番地川岸通

警視廳  
御用書林

須原鐵二

- 東京京橋銀坐四丁目 博間本社
- 大阪本町四丁目 岡島真七
- 大坂高麗橋二丁目 熊谷書店
- 大 全 神田區錦町一丁目 時習社
- 大 全 區表神保町 明法堂
- 大 全 日本橋區通三丁目 丸善書店
- 大 全 通一丁目 大倉書店



明治二十二年二月十七日印刷  
同 年二月十八日出版

發行者

東京府平民

須原鐵二

東京日本橋區本石町  
一丁目廿五番地

印刷者

東京府平民

桑原八郎次

東京日本橋區築地一丁  
目十五番地

發行所

須原書店

東京日本橋區本石町  
一丁目廿五番地



四十二卷

東京大學藏

明 顧 憲

卷 八 賦

東京大學藏

二十卷

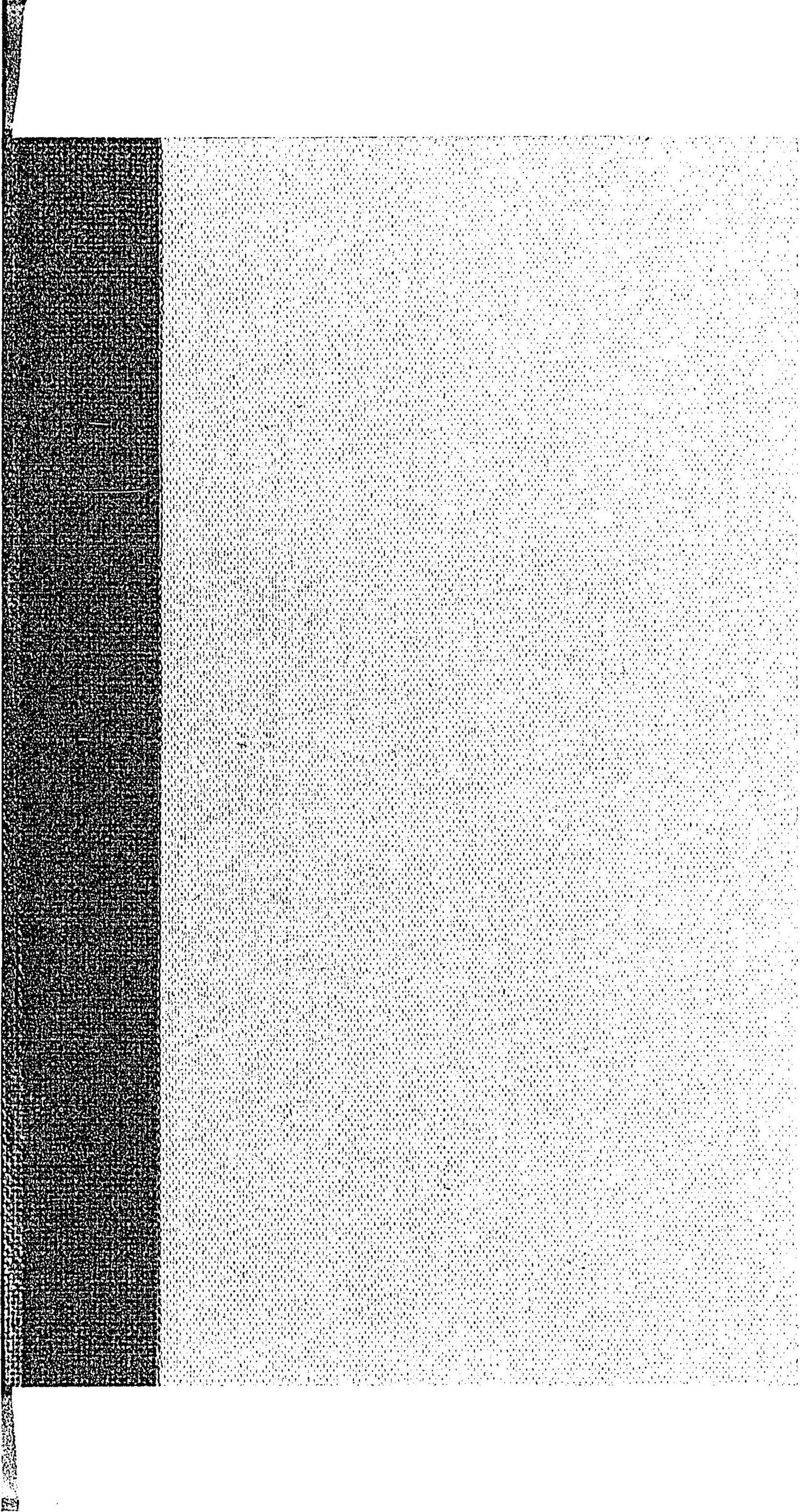
東京大學藏

經 行 錄

卷 八 賦

東京大學藏







明治二十二年紀元節御發布

大日本帝國憲法

附 議院法 衆議院選舉法  
會計法 貴族院令

国立国会図書館

CZ  
212  
010



031615-000-2

CZ-212-010

大日本帝國憲法

須原書店

M22

BBE-0242

